

## 基本理念

草加市立病院は、市民のいのちと健康を守り、地域医療の中核を担うことを使命とします。

# 草加市立病院

## 子ども急病夜間クリニック

### 地域で支える小児夜間救急

平成24年4月に市立病院心臓・脳血管センター1階に「子ども急病夜間クリニック」が開設されました。クリニックでは365日無休で夜間に小児救急診療が行われています。これは、草加八潮医師会の小児科医師などの協力のもと、子育て支援を目的とした草加市独自の取り組みです。スタートして約7か月が経過したクリニックの現状をお伝えします。

#### 医師会の協力による診療体制

子ども、特に乳幼児期は、夜間でも急な症状が出て具合が悪くなることがあります。その際に子どもや家族が抱く不安を少しでも和らげることができればと願い、草加市では草加八潮医師会の協力のもと、今年4月から市立病院心臓・脳血管センター1階に「子ども急病夜間クリニック」を開設し、夜間の救急診療を行っています。

#### それぞれの役割が果たせる体制に

開院から6か月（平成24年4月～9月）のクリニックの患者数は2540人でした。1日平均では13・9人ですが、1日最多患者数は59人でした。患者さんのほとんどは軽症で診療後にそのまま帰宅しています。が、症状が重く詳しい検査等が必要のため、クリニックを受診後に市立病院で診療を受けた患者さんは6か月で64人いました。

#### 救急体制の維持のため

このように直接病院に来院される患者さんに加え、救急車で搬送される患者さんなどの診療も市立病院の小児科当直医師が1人で翌朝まで診療していました。しかし、現在はクリニックが開院している時間は、市立病院の二次医療機関としての本来の役割である重症の救急患者さんや入院患者さんなどの診療に専念できるようになりました。

この救急医療の体制がこれからも継続的に運営されるには、利用される方々のご協力が欠かせません。救急診療に協力している医師会などの先生方は、自分の診療所や病院の診

療を終えてからクリニックに出向き、時には深夜まで患者さんを診察しています。「体力的にかなり厳しいですが、子どもたちのためにと思い働いています」と草加八潮医師会副会長の佐藤達也医師は話します。また、市立病院の小児科医師も同じ思いで、厳しい状況の中、いつ入院があっても対応できるように毎日当直体制を組んで備えています。

しかし、日々来院される患者さんの中には、昼間から症状が出ていて、医療機関を受診できなかったにもかかわらず、あえて夜になってから受診されるケースも少なくありません。佐藤医師は「もちろん急病と考えられるときにはためらわずにクリニックを受診してほしいです。ただ、医療機関が通常の診療を行っている昼間の時間帯であれば、医師や看護師などの医療スタッフが十分に配置されているので、診察や検査をスムーズに受けることができ、子どもや保護者の方にとって安心ですね」と話します。

医療の資源や人材に限りがある中で、救急医療体制を守っていくためには、医療者側だけでなく、受診する患者さんや家族のご協力が必要です。子どもたちの健康や健やかな成長を支えていくためにも、皆さんのご理解とご協力をお願いします。

#### 病状の緊急度に応じた診療を行っています

— トリアージ —

クリニックに来院される子どもの中には、症状が軽く帰宅できる人もいれば、ごく一般的な症状を訴えるものの極めて緊急度の高い病状が隠れていて、すぐに集中的な治療が必要な人もいます。

クリニックでは、診療受付後に看護師が子どもの症状を問診します。そこで子どもの病状の緊急度を判断し、今すぐ医師の診察が必要かどうかを決定します。この過程を「トリアージ」といい、トリアージによって決定された緊急度に従って、診察の順番が決まります。

周りに気付かれにくい隠れた病状を見つけ、重症と判断された子どもの診療を速やかに行うためにも、ご協力をお願いします。



子どもの健やかな成長を願って診療を行う佐藤達也医師

